

自我同一性と授業内容の価値との関係 — 内発的動機づけ理論の精緻化をめざして —

伊田 勝 憲

1. 問題と目的

学習指導要領（文部省，1999）では，学習の選択と将来の生き方・進路の選択との深いかかわりが指摘され，自ら学ぶことと自律的に生きることを統合的にとらえて指導・援助することが求められている。一方，自ら学ぶことの基礎と考えられる内発的動機づけの研究では，2つの構成要素である認知的動機づけ（知的好奇心）と社会的動機づけ（熟達，達成，使命感等）の「統合」（波多野・稲垣，1971）が今日まで課題として残されたままである。

近年，内発と外発の二分法的理解に対する批判から，手段的な動機づけが再評価されてきている（Deci & Ryan, 1985；鹿毛，1995；市川，1996）。また，青年期における自律的な動機づけや，学習内容の個人的重要性および動機づけの領域固有性を考慮する必要性が指摘される中で，動機づけの価値的側面が注目されている（速水，1995；Brophy，1999）。そして，動機づけ研究を自己および自己形成の研究として人格研究に統合することが課題として挙げられるだろう（鹿毛，1996；速水，1998）。

これらの動向を踏まえて，本研究では，学習を同一性形成過程と見なす状況論（Lave & Wenger，1991）の見方を取り入れるとともに，Eccles & Wigfield（1985）による課題価値の概念を精緻化して，職業実践に活かすことを志向する学習動機を含む5つの価値を取り上げる。そして，Vallerand（1997）による動機づけの階層構造モデルをもとに，領域一般的な達成動機を媒介変数として，自我同一性と課題価値との関係を検討し，青年期後期における自律的な学習動機づけ像を明らかにする。

2. 課題価値尺度の作成

【目的】

授業期間の早期において，自分にとってどのような価値を持つ内容を授業に対して期待しているか（課題価値希求），また，学期末において，授業内容にどのような価値を見出しているか（課題価値評価）を測定する尺度をそれぞれ作成し，その信頼性を検討する。

【方法】

分析対象 ①課題価値希求：大学生・短大生・専門学校生，計515名。②課題価値評価：大学生・短大生・専門

学校生，計480名。③希求と評価の関係：①と②の両方で分析対象とされた215名。

調査内容 課題価値希求（2000年5月）および課題価値評価（同年7月）：i）興味価値：授業内容のおもしろさ，ii）私的獲得価値：学習を通しての望ましい自己像の獲得，iii）公的獲得価値：他者から見て望ましい自己像の獲得，iv）実践の利用価値：職業実践への有用性，v）制度的利用価値：就職試験への有用性。各6項目。7段階評定。

【結果と考察】

因子分析（主因子法・プロマックス回転）の結果，課題価値の希求と評価ともに，利用価値，興味価値，私的獲得価値，公的獲得価値に対応する4因子構造が得られた。利用価値については，二次的な因子分析により項目作成時の2つの概念におおむね弁別された。各下位尺度の α 係数は.90以上であった。そして，課題価値希求と課題価値評価との関係を検討した結果，同じ価値の希求と評価の相関が $r = .53 \sim .61$ となり，課題価値尺度としての再検査信頼性が確認された。

3. 課題価値尺度と関連変数との関係

【目的】

課題価値希求とパーソナリティ関連変数（自意識，現在の充実感，個人志向性・社会志向性）との関係，そして，課題価値評価とパーソナリティ関連変数および学習関連変数（課題の困難度，能力認知，個人的重要性，学習観，学習行動）との関係を検討する。

【方法】

分析対象 ①課題価値希求と関連変数：大学生と短大生，3つの授業で計245名。②課題価値評価と課題の困難度，能力認知，個人的重要性：大学生と短大生，5つの授業で計529名。そのうち3つの授業の計249名にはパーソナリティ関連変数，1つの授業の183名には学習観および学習行動が含まれた。

調査内容 ①課題価値希求尺度：計30項目。②自意識尺度（菅原，1984）：「公的自意識」11項目，「私的自意識」10項目。③時間的展望体験尺度（白井，1994）の中から「現在の充実感」5項目。④個人志向性・社会志向性尺度（伊藤，1993）：「個人志向性」8項目，「社会志向性」9項目。⑤課題の困難度，能力認知：Eccles & Wigfield（1995）を参考に，課題の困難度6項目，能

力認知3項目を作成。⑥個人的重要性 (personal relevance) : Losier & Koestner (1999) を参考に3項目作成。⑦基本的学習観 : 市川・堀野・久保 (1998) による計24項目から16項目を選択して使用。⑧学習行動 : Zimmerman & Martinez-Pons (1986) などを参考として、自己調整学習方略を中心に30項目作成。

【結果と考察】

課題価値希求は、私的自意識との間に有意な正の相関が見られたものの、現在の充実感および社会志向性・個人志向性との相関は授業によって結果が異なっていた。課題価値評価は、2つの自意識と2つの獲得価値との間および社会志向性と複数の課題価値との間に正の相関が見られた。一方、能力認知と個人的重要性は、課題価値評価との間に一貫して中程度の正の相関が認められ、Eccles & Wigfield (1995) の結果と整合した。しかし、課題の困難度は、1つの授業を除いて無相関であった。また、理解志向的な学習観および認知的な学習方略としての関連づけ、および自分で調べたり予習・復習をするという学習行動と利用価値との間に中程度の正の相関が見られた。今後、授業での教授方法や個性記述的観点を考慮して検討を進める必要がある。

4. 自我同一性と課題価値との関係

【目的】

同一性の感覚と課題価値評価との関連について、教職志望程度を考慮しながら、職業レディネスおよび達成動機を含めて検討する。また、授業期間の早期における課題価値希求と同一性得点の変化量の関係、そして同一性得点の変化量と学期末の課題価値評価との関係について探索的に検討する。

【方法】

分析対象 ①自我同一性と課題価値評価 : 教員養成系教育学部における教職必修科目「生徒指導」の受講生204名。全員が教員養成課程に所属しており、教員免許状の取得が卒業要件となっている。②同一性得点の変化と課題価値 : ①の204名のうち、縦断的分析に必要なデータに不備のなかった171名。

調査内容 2000年5月 : ①自我同一性 (第V段階) 尺度 (谷, 1997) : 「自己斉一性・連続性」…自己の不変性、時間的連続性の感覚。「対自的同一性」…自己についての明確さ。「対他的同一性」…本当の自分が周囲に理解されているという感覚。「心理社会的同一性」…社会的現実の中で発達しつつあるという感覚。各5項目。②課題価値希求尺度。2000年7月 : ①自我同一性 (第V段階) 尺度。②達成動機測定尺度 (堀野, 1994) : 「競争的達成動機」10項目…社会から評価されることをめざす。「自己充實的達成動機」14項目…自分なりの達成基準への到

達をめざす。③職業レディネス尺度 (下村・堀, 1994) : 「明瞭性」…職業選択における自分の目標、興味、手段などの理解。「関与」…職業選択に対する取り組み。「非選択性」…職業選択を重視しない傾向。各5項目。④課題価値評価尺度。⑤希望職業 : 最大3つまで記入し、それぞれの希望程度を3段階で評定。⑥課題の困難度、能力認知、個人的重要性、学習行動 (計42項目)。

【結果と考察】

課題価値尺度については、希求と評価ともに項目作成時の想定に対応する5因子構造が得られた。そして、自我同一性—職業レディネス—自己充實的達成動機—課題価値評価という形での関連が認められた。具体的には、自己充實的達成動機は、教職志望積極群において実践的利用価値の評価と中程度の正の相関を示し、また、教職志望程度に関わらず、興味価値および私的獲得価値との間に正の相関が認められた。一方、公的獲得価値は競争的達成動機と正の相関を示した。これらの結果から、同一性の感覚と職業レディネスが密接に関係し、それらが自己充實的達成動機を支え、授業内容の職業的有用性、おもしろさ、そして授業を通して自分が成長したという感覚につながることを示された。また、能力認知と個人的重要性、認知的な学習方略としての関連づけが、課題価値評価の基礎にあることが示唆された。

次に、授業期間の早期と学期末の2回にわたる縦断的調査により、2回の同一性得点およびその変化量と課題価値の関連を検討した。その結果、興味価値および私的獲得価値の希求と心理社会的同一性得点の変化量との間に有意な正の相関が認められた。これらの結果により、課題価値希求から同一性の感覚へ、同一性の感覚から課題価値評価へという循環的な過程の存在が示唆された。

5. 総合的考察と今後の展望

本研究の成果をまとめると次のようになる。第1に、課題価値の概念的枠組みを精緻化し、その測定尺度が開発された。第2に、青年期後期における自律的な学習動機づけの様相は、学習者の希望職業と授業内容との関係性によって異なることが明らかにされ、望ましい動機づけを固定的にとらえることの危険性が示された。

本研究の結果から、学校場面における主体的な学習意欲を高める上で、生徒指導、進路指導および教育相談といった同一性形成の支援に関わる教育活動が重要な役割を果たす可能性が示唆される。今後、学習者が複数の学習内容をそれぞれどのように価値づけたり選択したりしているのかについて自我同一性の内容面に焦点を当てて個性記述的な分析を進めることが課題である。